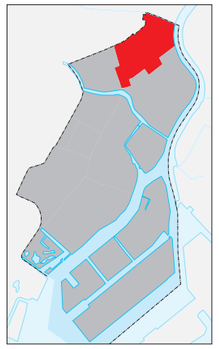
Ⓒ 小伝馬町～東日本橋エリア 現在の町なみ



日本橋小舟町、日本橋小伝馬町、日本橋大伝馬町
日本橋堀留町一～二丁目、日本橋富沢町
日本橋馬喰町一～二丁目、日本橋横山町
東日本橋一～三丁目、日本橋久松町

町名は江戸時代からよばれているものがほとんどで、1962（昭和37）年から実施された住居表示（建物などの所在場所を表示する制度）によって整理統合され、日本橋区（→p.89）にあった町としてそれぞれの頭に「日本橋」がつけられた。町ごとにいろいろな種類の問屋が集まり、東京の問屋街の中心的存在となっている。

このエリアは赤い部分。

日本橋小伝馬町

小さい会社と小物問屋が建ち並び入りこんでいる。
伝馬とは人や荷物を運ぶ馬のことで、1606（慶長11）年、江戸城敷地内にあった伝馬役所が外へ移されたとき、江戸の町なかの伝馬役所がこの地に置かれ小伝馬町とよばれるようになった。

日本橋大伝馬町

町には金物問屋が多い。
小伝馬町と同じで、1606年に江戸城敷地外へ移された伝馬役所のうち、江戸の市内から郊外の宿場をつなぐ伝馬役所がこの地に置かれ、大伝馬町となった。

日本橋横山町

横山の町名は、1590（天正18）年に徳川家康が入城する前から存在した地名で、その名のおこりは横山という人物が町をつくったためといわれている。

日本橋馬喰町

馬喰町・横山町一帯には服飾や日用品などの卸問屋が軒を連ねている。
かつてこの地域には、馬の売買を行う博労が住んでいた。そのため博労町とよばれていて、正保年間（1644～1648）のころ、馬喰町と改められた。

日本橋小舟町

その昔、小舟町にはうちわ問屋が多く集まり、江戸時代から続く老舗のうちわ問屋（伊場仙）が現在も残っている。
小舟町一帯は1603（慶長8）年の町づくり以後は下舟町とよばれていたが、本船町（→p.151）の旧名大船町に対して、1720（享保5）年に小舟町と改められた。

日本橋堀留町

堀留町・富沢町一帯には繊維や和装をあつかう卸問屋が集まっている。
町名は、この町が東堀留川の北側、つまり水路の行きどまりにあったことからつけられた。

日本橋富沢町

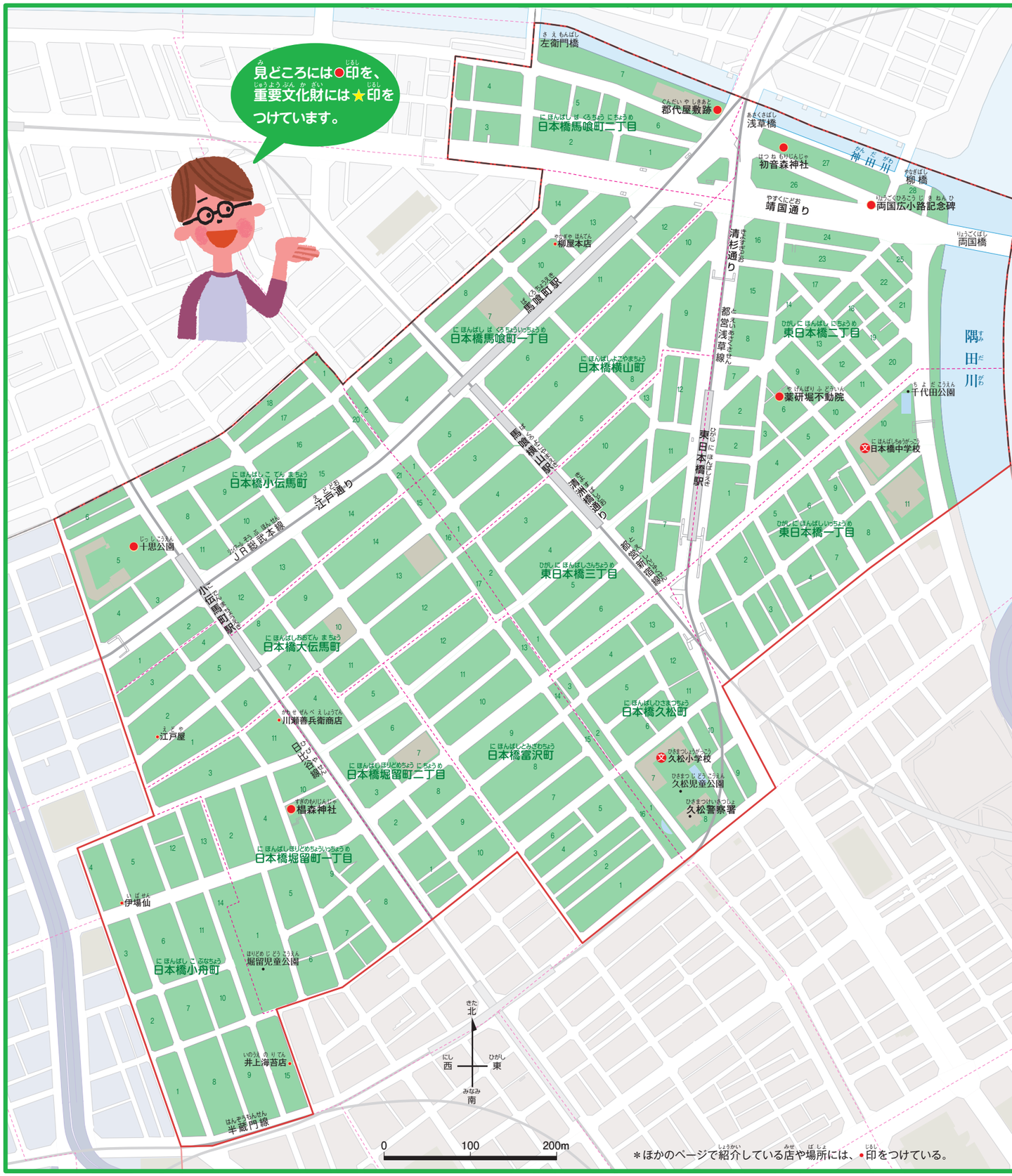
当初は鳶沢町とよんでいたのを富沢と改めたといわれている。
江戸幕府が開かれたあと、鳶沢という盗ぞくが、ほかの盗ぞくの取りしまりに協力することを条件に、自分の犯した罪を許され、土地を与えられた。富沢の町名はこの盗ぞくの名からついたといわれている。

日本橋久松町

古くからの小さな商店と住宅地が混在する地域。
1683（天和3）年に村松町内にあった本多豊前守屋敷跡を1つの町として久松町とよんだ。久松という町名の由来は明らかになっていない。

東日本橋

住居表示によって生まれた町名。
旧日本橋区にあった、村松町、若松町、矢ノ倉町、薬研堀町、米沢町、両国、橘町の7つが1つになり、東日本橋とよばれるようになった。



＊ほかのページで紹介している店や場所には、●印をつけている。